

## 1. 院内で転倒転落の結果、治療を必要とする事故発生件数

### 院内で転倒転落の結果、治療を必要とする事故発生件数集計方法と定義

◆転倒転落件数は医療安全管理室に報告されたインシデント/アクシデント報告書をベースにしています。

臨床評価指標項目	2017(平成 29)年度	2018(平成 30)年度	2019(平成 31/令和元)年度
入院患者の転倒・転落件数(ヒヤリハット報告含む) (分子)	535	564	640
入院延べ患者数 (分母)	312,457	315,653	322,651
入院患者の転倒・転落発生率 (単位‰(分子/分母)*1,000)	1.7‰	1.7‰	1.9‰
入院患者の転倒・転落後、骨折・頭蓋内出血が発生した件数	3	8	7
入院患者の転倒・転落後、擦過傷や打撲が発生した件数	49	55	40

## 解説

2019年度の転倒、転落の件数は619件であり、入院件数の増加に伴い転倒、転落の件数も増えております。

年齢別においても70代、80代の転倒件数が多く、要因としては、自宅と異なる環境の変化、発熱や身体症状等が影響していることが多いです。

高齢者の方におきましては、入院生活により筋力の低下をきたしやすい状況であるため、リハビリの介入等行っております。

ベッド周囲の環境調整、案内を引き続きさせていただきます。

病院内では構造上、滑りやすいことや段差もございますので、入院中はスリッパではなく踵のある靴を履いていただきたいと思います。

2019年度より多職種による転倒、転落防止ワーキングを開始しています。転倒件数に比べ骨折などの発生件数は減少しており今後も活動に力を入れ入院された患者さんが転倒、転落によって重篤な障害につながらないよう環境整備や対策に努めていきます。

## 院内で発生した VTE 件数

### 院内で発生した VTE(PE/DVT)件

臨床評価指標項目	2017(平成 29)年度	2018(平成 30)年度	2019(平成 31/令和元)年度
入院患者に発生した VTE(PE/DVT)件数	122	73	65
入院患者の VTE 発生率 単位%	0.04%	0.02%	0.02%

### 解説

肺血栓塞栓症(PE)と深部静脈塞栓症(DVT)は静脈血栓塞栓症(VTE : Venous Thromboembolism)と総称されます。

入院患者では VTE が生じやすいといわれており、時に致死的な合併症となります。

医療安全管理室では、診療記録管理室の協力のもと 2017 年より院内発症の VTE の発生件数を集計しています。

集計結果は院内のセーフティマネジメント委員会等において適宜周知し、積極的な予防を推奨しており、VTE 発生件数は減少傾向にあります。